

大沢昌助 略歴



- 1903 東京生まれ
- 1928 現・東京芸術大学西洋画科（藤島武二教室）を首席で卒業
- 1929 第16回二科展初入選（1982年退会）
- 1954 現代日本美術展に招待出品（以降毎回出品）
この他国際形象展、サンパウロ・ビエンナーレ展招待出品
多摩美術大学教授となる（1970年まで）
- 1964 東京五輪・国立競技場壁画制作
- 1989 パリ・グランパレ美術館「SAGA展」にリトグラフ「そうぐう」シリーズを発表
- 1990 練馬区立美術館「具象絵画のモダニズム 1930-1940」に出品
- 1991 東京新都庁舎、都議会本会議場前ロビーの大理石壁画デザインを手がける
練馬区立美術館「変身と変貌・大沢昌助展」新旧作品約100点
銀座和光ホール「米寿記念・大沢昌助展」
- 1994 志摩 museum 開館一周年記念展「大沢昌助展」
アンビック現代美術館「大沢昌助新作展」
- 1995 「中村彝賞」受賞
- 1997 5月15日アルカディア主催「大沢昌助新作展」会期中急逝
- 1997 練馬区立美術館 追悼展「大沢昌助 あらたなる現在」
- 1999 茨城県立近代美術館「中村彝賞記念展 大沢昌助」
- 2003 練馬区立美術館「生誕100年大沢昌助展 - 家族の肖像 -」
- 2010 練馬区立美術館「大沢昌助と父・三之助展」
(没後1997年より2023年まで毎年、アルカディア主催「大沢昌助展」開催)
- 2023 練馬区立美術館「生誕120年 大沢昌助展」
いすみ市田園の美術館「生誕120年記念 大沢昌助展」

art adviser 青山ムツコ （大沢昌助絵画資料室 ナギサ管理責任者）



1944年東京生まれ。画商、美術教育者。
都立竹台高校卒業後、有名作家に15年間絵画、木彫を師事。
商社に勤めたが、福祉の仕事をしたいと養護施設の保母として勤める。その後、従兄弟の経営する銀座のギャラリーを手伝う。この時大沢昌助展を企画。出産を機に退職し、美術事務所を開設し独立。大沢作品はじめ、個性的で価格の先行していない作家をメインに取り扱う。並行して、子供達の感性教育のための絵画教室を45年間続け、「こどもの世界展」を毎年43回開催。大沢作品の紹介を主として展覧会開催、販売のかたわら、秘書的役目を逝去するまで続けた。大沢作品を多くの美術館へ寄贈。2023年紺綬褒章授与される。

現在いすみ市で大沢昌助絵画資料室ナギサ責任者として運営のかたわら、美術の普及とレベルを上げることに努めている。